

令和2年度第2回さいたま市公共事業評価審議会 摘録

- 1 開催日時 令和3年1月28日(木) 9時30分～11時50分
- 2 開催場所 西会議棟1階 第1入札室(オンライン会議との併用)
- 3 出席者 委員 久保田会長 伊藤(史)委員 伊藤(匡)委員 桑田委員
小池委員 持田委員 八木澤委員
さいたま市 建設局 村上理事
都市局まちづくり推進部市街地整備課 谷口課長補佐 外1名
都市局まちづくり推進部日進・指扇周辺まちづくり事務所
中島参事兼所長 外2名
都市局都心整備部大宮駅東口まちづくり事務所
菅又所長補佐 外1名
建設局土木部道路環境課 亀井主査 外1名
建設局土木部道路計画課 関根課長補佐 外2名
建設局土木部河川課 磯目課長 外2名
建設局建築部建築総務課 佐々木課長補佐 外1名
建設局下水道部下水道計画課 新井課長補佐 外3名
事務局(建設局技術管理課) 高橋参事兼課長 外4名

4 議 事

(1) 審議

〔事前評価〕さいたま市無電柱化推進計画(都)産業道路(天沼2工区)、(主)さいたま幸手線(常盤) 外11路線

〔事前評価〕さいたま市における安全・安心な居住環境の整備(第三期)(防災・安全)

〔事前評価〕さいたま市における浸水被害の軽減を図る治水対策の推進<第2期>(防災・安全)

〔事前評価〕さいたま市の安全な都市をつくる下水道整備<第3期>(防災・安全)

〔事前評価〕さいたま市の安全な都市をつくる下水道整備<第3期>(防災・安全)(重点計画)

〔事前評価〕大宮駅周辺地区(第2期)都市再生整備計画

〔事後評価〕日進駅周辺地区(2期)都市再生整備計画

〔事後評価〕大宮駅周辺地区都市再生整備計画

(2) その他

- 5 傍聴者 なし(非公開)

6 議事内容

(1) 審議

〔事前評価〕 さいたま市無電柱化推進計画 (都)産業道路(天沼2工区)、(主)さいたま幸手線(常盤) 外11路線

道路計画課	[道路計画課より説明 資料1]
	《質疑応答》
桑田委員	・説明資料9ページのまとめについて、費用便益分析の結果、1.0を上回るコメントがあるが、簡単に説明いただきたい。
道路計画課	・費用対効果については、車線数の増加する路線を対象としており、今回対象となるのは、3路線の街路事業となっている。
	・都市計画道路の産業道路(天沼2工区)については、費用便益比が事業全体で3.0、都市計画道路の産業道路(天沼工区)については、費用便益比が事業全体で7.4、都市計画道路の南大通東線(天沼工区)については、費用便益比が事業全体で1.5の結果となっている。
桑田委員	・結果の根拠を見せていただきたい。計算の根拠があると確認しやすい。
道路計画課	・(手持ち資料を提示)国土交通省の費用便益分析マニュアルにより算出している。
桑田委員	・次回以降で構わないので、数値結果に加え、数値の根拠を補足資料に添付してもらえると理解しやすい。
道路計画課	・わかりました。
久保田会長	・このB/Cは街路事業ということでもいいか。
道路計画課	・そのとおりです。
久保田会長	・今回記載してある費用対効果は無電柱化推進計画によるものでなければ、参考とわかるようにしてほしい。
道路計画課	・わかりました。
久保田会長	・交通安全施設整備事業については、「-」と記載しているが、この場合はB/Cが出ないということでもいいか。
道路計画課	・費用対効果については交通量に依存するため、車線数が増加する事業を対象に考えている。
	・そのため、交通安全施設整備事業については、車線数が増加する事業ではないことから、費用対効果を算出していない。
	(意見等以上)
久保田会長	・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。
委員	(意見なし)
久保田会長	・本件の審議は以上。

〔事前評価〕 さいたま市における安全・安心な居住環境の整備(第三期)(防災・安全)

建築総務課	[建築総務課より説明 資料2]
	《質疑応答》
伊藤(匡)委員	・新型コロナウイルスによって、計画が遅れてしまう可能性はあるか。民間特定建築物、住宅に関して、影響があるのか伺いたい。
建築総務課	・補助事業に関しては、特に戸建て住宅等は単年でやっている事業であり、毎年4月から補助事業を受付け、1月31日までに完了していただくスケジュールで行っている。
	・本年度に関しては、新型コロナウイルスの影響があり、住宅の改修などのスケジュールが検討段階から遅れている方がいた。
	・そのため、年度の途中で要綱等の変更を行い、複数年事業を可能とするように対応している。
桑田委員	・説明資料5ページに記載されている指標②、③の最終目標値として概ね解消としているが、当初現況値が90%を超えているため、見方によっては概ね解消という記載が既に解消されているように感じる。もう少し具体的な記述のほうが、次回評価するときの判断となるのではないか。
建築総務課	・耐震化率の目標については、耐震改修促進法第4条で国の基本方針が示されることとなっている。それに基づき都道府県の耐震改修促進計画を策定し、市町村の促進計画については、都道府県の計画に則して策定する法律の体系となっている。
	・最新の国の基本方針・県の計画としては、住宅の耐震化率については95%、多数の者が利用する建築物について、耐震診断が義務化されるものについて概ね解消という言葉で示されている。
	・概ね解消の数値の量感は、95~100%の間として示されている。
	・95%を超える数値ということで、市としては認識している。今後評価していくにあたっては、なるべく数値で評価していきたいと考える。
桑田委員	・何かそういった部分がわかるとよりよいと思う。
久保田会長	・95%を超えることが事後評価の対象となるということか。
建築総務課	・そのとおりです。
持田委員	・説明資料6ページの数値について、助成の金額と件数の関係で、第二期は2,900戸を対象として市の助成が8億3千万円ということになっている。今回は、2,400戸を対象として13億円かかることとなっているが、その相関関係について伺いたい。
建築総務課	・第一期、第二期の額については、予算に対する決算額になるため、予算に対する執行率は、必ずしも100%でないということで、70~80%というところがあると思う。
	・第三期については、5年間の予算ベースでの数字であるため、決算ベースを考えると、示した値から2~3割低くなることも想定される。

久保田会長	(意見等以上) ・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよい か。
委員	(意見なし)
久保田会長	・本件の審議は以上。

〔事前評価〕さいたま市における浸水被害の軽減を図る治水対策の推進〈第2期〉(防災・安全)

河川課	[河川課より説明 資料3]
	《質疑応答》
伊藤(国)委員	・説明資料6ページの上院川について、2期目にも関わらず事業進捗率が0.0%になっており、今回用地取得が事業内容になっているが、これは1期では用地取得が進まなかったということか。
河川課	・1期の段階では、河道の詳細設計を実施し完了したところである。2期から用地取得となっている。
八木澤委員	・説明資料4ページの指標について、氾濫解析を行う場合、その河川だけで実施するものなのか。流域で考えて他の河川への接続等を考えたうえでの氾濫解析なのか。
河川課	・氾濫解析については流域で考えており、合流先の河川等を含めて行っている。
八木澤委員	・雨の降り方を考えたうえでの値としているのか。
河川課	・雨の量に関しては、1時間当たり30mmの強度として流域全体に降っていることを想定している。
伊藤(史)委員	・1点目は、説明資料3ページ目、令和3年度当初と改修前を比べると新川だけが戸数が違っているため、具体的にいつ時点のものなのか。
河川課	・新川の改修は平成3年から始めており、未改修の状態が121戸で、現在、1,291mの改修が完了している。 ・現在は、算定例に示すように79戸の浸水戸数が残っていることを数値で示している。
伊藤(史)委員	・平成3年から事業を開始していることの記載があってもよかった。 ・2点目はB/Cについて、算定マニュアルに基づいたと言われてもわからないため、便益は、せめてどういう項目を積み上げているか、別添資料でいいので今後示していただきたい。
河川課	・今後の参考とさせていただく。
小池委員	・説明資料6ページで、上院川の事業内容が用地取得となっているが、改修後で想定浸水家屋数が0戸というのは、用地取得し、整備も合わせて行うということなのか。
河川課	・今回の計画のなかでは、用地取得だけであるが、その後整備をすること

小池委員 河川課	<p>による結果であり、浸水家屋数が最終的に0戸とあるのは、全川の整備が終わった後になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度までは用地取得、その後、改修をするということか。 ・そのとおりです。 <p>(意見等以上)</p>
久保田会長 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。 <p>(意見なし)</p>
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本件の審議は以上。

〔事前評価〕 さいたま市の安全な都市をつくる下水道整備<第3期> (防災・安全)

〔事前評価〕 さいたま市の安全な都市をつくる下水道整備<第3期> (防災・安全) (重点計画)

下水道計画課	<p>[下水道計画課より説明 資料4]</p>
小池委員	<p>《質疑応答》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明資料13ページの改築更新の事業について、令和2年度末の整備状況で、3,450kmの下水道管のうち、684kmを点検し、そのうち58kmの改築をしたとのことである。 ・今回の事業内容は、中心市街地の1,400kmのうち、27kmを改築することとなっているが、令和2年度に終わる見込みのもので今回実施する延長との関連性はないのか。新たに1,400kmを選定したということか。令和2年度で実施できなかったものがあるのではないか。 ・また、説明資料16ページの浸水対策の整備状況で、先に82箇所を選んでそのうちの46箇所の対策を完了した。今回は、新たに48箇所を設定したということだが、令和2年度までに実施できなかった対策が36箇所あり、それを含めて48箇所を選んだということか。
下水道計画課	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、改築の距離数について、令和2年度末で684kmのうち58kmの改築を実施した。さらに調査を進めて1,400kmを実施することとなり、1,400kmの内数が684kmとなる。27kmとあるのは、58kmに加えてこの5年間で改築していく数値となる。 ・また、整備促進エリア箇所数82箇所のうち、残りの36箇所について、当初整備促進エリアを設定したのが平成23年で、その後の土地利用の変化や他工事の河川改修、道路改修等により、浸水しないエリアもあった。 ・そのため、浸水しないエリアを除く18箇所を前回計画で整備できなかったエリアとしている。
八木澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・説明資料9ページの定量的指標の浸水を軽減する割合について、割合と書かれると違和感がある。説明資料8ページのポンプ場の改築実施率ということであれば納得できるが、浸水の面積や浸水戸数がどれだけ減少

	<p>するかという書き方にしないと浸水を軽減する割合にならないのではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連して説明資料 17 ページで 48 箇所のうち、18 箇所を選定したことについて、何でこの 18 箇所の整備を行うのか、説明が少しあると優先的な理由がわかる。
下水道課	<ul style="list-style-type: none"> ・整備促進エリアの数の割合について、下水道として整備しているのが川のように大きな流域でやっているのではなく、この 48 箇所は、市民からの通報や浸水被害を踏まえて対策を進めているのが現状である。 ・そのなかで、シミュレーションを用いて何戸くらいが浸水するとか、どのくらいが道路冠水なのか、詳細な検討をしていかないと、なかなか数値を出すことができないのが現状である。 ・そのため、それぞれの対策をやっていくことで整備促進エリアの数の割合を設定したところである。 ・また、浸水被害を軽減するエリアを 18 箇所選んだ理由は、浸水対策の設計を始めてから完了するまで長期的な時間がかかることもあり、工事だけでも 2、3 年を要す。期間中においては、33 箇所の事業を動かしていくが、そのうち整備の規模や対策の内容によって完了するのが 18 箇所ということになっている。
久保田会長 八木澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・八木澤委員の 1 点目の指摘は、指標の名前のことではないか。 ・そのとおりで、こう書かれると違和感があると感じたので、設定したエリア数の完了した割合としたほうが誤解は生じないと思った。
下水道課	<ul style="list-style-type: none"> ・参考とさせていただきたい。
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市のほうでも今後検討させていただきたい。
下水道課	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりました。
持田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・説明資料 7 ページの目標の設定について、今回第 3 期目ということから、2 期の令和 2 年度までに 474km が達成され、今期も同様な進捗を見込むと 1 期だけで 400km 程度も進むのか。
下水道課	<ul style="list-style-type: none"> ・1,400km は、市内全 3,450km あるなかの中心市街地周辺の比較的古い施設、リスクの高いものから選んでいる。その 1,400km を今後 10 年で健全化を確認しようというものであり、中間の 5 年間で 884km という目標を 2 期までと比較してスピードアップを図っていきたい。
持田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードアップを図るということだが、現実的には可能なのか。説明資料 13 ページのところでは、改修に関して 2 期で 58km であったものに対して、1 期で 27km ということなので、1 期毎の数字が可能な範囲になっているように見える。説明資料 7 ページ全体を見ると大きな数字が載っているなど感じた。
下水道課	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度までは調査方法が違っており、下水道管の中を調べるのにテレビカメラを直接入れて年間 40km くらい調査をしてきた。平成 30 年度からテレビカメラに加えて管口カメラいわゆるスクリーニングを用いることが可能となり、距離を稼ぐことができるようになった。 ・明らかに悪いものをスクリーニングにかけて、そこにテレビカメラを入

持田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来て確認する段階を踏むことでスピードアップを図るようにした。 ・ そのため、目標値については現実可能な数値となっている。
下水道計画課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術が進歩することにより可能となったということではないか。
桑田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのとおりです。 ・ 公共事業評価調書の重点計画について、計画の成果目標に記載されている浸水被害を低減するため18か所を整備し、とあるが、これは18か所の整備を完了しということではないか。
下水道計画課	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのとおりです。 <p>(意見等以上)</p>
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよい
委員	<p>(意見なし)</p>
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本件の審議は以上。

〔事前評価〕 大宮駅周辺地区(第2期)都市再生整備計画

大宮駅東口まちづくり事務所	<p>[大宮駅東口まちづくり事務所より説明 資料5]</p>
小池委員	<p>《質疑応答》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指標3について、休日ピーク時の歩行者交通量を従前値と目標値を出しているが、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が出ているなど、今の状況が非常事態になっている。そのなかで、歩行者の交通量が比較できるものなのか、考え方を伺いたい。
大宮駅東口まちづくり事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休日ピーク時を選んだ理由について、新型コロナウイルスの影響で通勤の方等が減っているなかで、通勤に影響されない時間帯を踏まえ、休日の日中のピーク時を選んだ。 ・ 新型コロナウイルスの影響が今後どのようになるのかわからない状況ではあるが、現況と比べて交通量が伸びていくことがまちづくりの一つの成果と考えている。
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値はいつごろ計測するのか。
大宮駅東口まちづくり事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の終了する5年後に計測する。
桑田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指標について、1と2はアンケートによるものだが、3が大宮駅東口の指標になっている。計画のエリアとしては西口を含めており、定量的な指標を西口でも設ける必要があると思うが、いかがか。
大宮駅東口まちづくり事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご指摘のとおり、今回歩行者交通量の結果については、お示しした箇所になっているが、西口の部分も可能な限り5年後もしくはモニタリング

務所	の段階で確認したいと思う。
桑田委員	・西口もエリアに含まれているのであれば指標を設ける必要がある。
久保田会長	・5年後に測ったとしても評価ができないと考えるが、その点はどうか。
大宮駅東口 まちづくり事 務所	・まず今年度調査したデータがあるのか確認したうえで、必要に応じて今年度にピーク時間の調査を行い、5年後に比較できるものを検討する。
久保田会長	・西口でも調査しているので、評価はできると思う。今の指摘を踏まえて西口においても定量的な評価をしてもらうということでもいいか。
大宮駅東口 まちづくり事 務所	・わかりました。
久保田会長	・参考までに、評価の指標でアンケートと交通量ということだが、ウォークابلという話だともう少し質の評価をしなければならない。今まではアンケート等をするしかなかったが、どう評価をするかは、国のほうでガイドラインを策定しているところである。 ・次の議論においては、新しい評価の仕方、質の評価ができることになるので、今後、こういうプロジェクトに対する指標の取り方を少し検討いただきたい。 (意見等以上)
久保田会長	・この事業について、定量的指標のなかに大宮駅西口の休日ピーク時の歩行者交通量を加えること、その他については特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。
委員	(承認)
久保田会長	・本件の審議は以上。

〔事後評価〕 日進駅周辺地区(2期)都市再生整備計画

市街地整備課	[市街地整備課より説明 資料6]
小池委員	《質疑応答》 ・七夕祭りについて、内容は同じものなのか。その年によって特色を変えているのか。
日進・指扇 周辺まちづ くり事務所	・内容については特に変わったとは伺っておらず、平成22年度から毎年8月6日、7日に曜日に関係なく開催している。
小池委員	・事後評価で七夕祭りの入り込み客数を入れているため、駅前の整備が終わったことで人数が増えたのか、七夕祭りの中身で人数が増えたのか確認した。 ・七夕祭りの内容が毎年同じということであれば、今回の指標は入れてもいいと感じた。

久保田会長	(意見等以上) ・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよい か。
委員	(意見なし)
久保田会長	・本件の審議は以上。

〔事後評価〕 大宮駅周辺地区都市再生整備計画

市街地整備課	[市街地整備課より説明 資料7]
桑田委員	<p>《質疑応答》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明資料10ページの今後の方針について、フォローアップ計画を実施するということだが、低炭素まちづくりについて、大宮区役所、図書館が開設され、排出CO2が削減されたか補足で数値を出すことはできないか。
市街地整備課	・具体的な数値については手元になく、数値を示すことができない。
桑田委員	・計画のなかになくても、事業を組み立てるときにCO2排出の削減等について算出していなかったのか。
市街地整備課	・計画のなかでの位置付けはないが、事業立上げ時の状況を調査したうえで報告することでもよいか。
桑田委員	・お願いしたい。アンケートでは事業の効果がうまく説明できていないところが残念な結果であるので、実際にCO2が削減できたことがわかればいいのかと思った。
持田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・説明資料6ページの回遊性の評価について、令和2年度で26%ということで、コロナ禍での状況で致し方がない数値だと思う。これをベースに資料5の指標1のところまで目標を設定しているが、ある意味、異常値をベースに次期計画の目標を組み立てていくのはいかがなものかと思う。 ・そもそも平成27年度の現況値が40%となっているので、それを下回るような目標値でいいのか。
大宮駅東口 まちづくり 事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・異常値という指摘だが、目標値の設定の考え方としては、5年後における市民からの期待度を一つの目標としている。 ・現時点で5年後にどうなっているかという期待値が資料5の目標値36%になるので、まずは事業を進めていくことで、市民からの期待値を超えていくことを目標にしていければと考えている。新型コロナウイルスの収束後には数値のフォローアップをしていきたいと思っている。
持田委員	・1期の計画では、平成27年度の40%をベースに令和2年度には66%に伸ばすという考え方ではないか。それを踏まえると2期の目標の立て方は、大門町2丁目中地区のシンボリックな建物ができるなかで、回遊性の高まりは見通せるものではないか。こういう数値でいいのかという気がするが、いかがか。

久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響がいつまで続くのかということも関係しそうか。資料5では令和7年度の目標値が36%と控えめな数字だが、次期計画においてもコロナの影響があるという安全側の見通しなのか。
大宮駅東口 まちづくり 事務所	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートにおいて、5年後に賑わいが高まっていると思いますかという設問に対して、していると思うと、こういう事業をやることで期待できるという回答結果が今回の目標値36%となっている。 ・まずは36%という目標値をクリアしていくことが目標になると考えている。合わせて賑わいを図る指標というのは、国土交通省のほうでも新しい指標の考え方がガイドラインとしてまとめているので、そうしたことも補足的に調査をしながらフォローアップしていきたい。
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料5の賑わい・回遊性の目標値であるが、現状を踏まえ低くしているということによいか。
持田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・致し方がないかと思う。
伊藤(史)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの事前評価と事後評価との関係性について、事後評価を受けて第2期として先ほどの事業を実施することでもいいか。
市街地整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりです。指標に関しては、事業の内容も一部変わったため、今の計画にふさわしいものを設定している。
伊藤(史)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的な低炭素の指標が次期計画から除かれるのは残念なところではあるが、フォローアップ計画を説明資料10ページに記載している。そこには賑わい・回遊性以外に低炭素と帰宅困難者収容人数の災害対応のことが書かれているが、次期計画では賑わい・回遊性のことだけがクローズアップされている。そうするとこのフォローアップ計画の2、3についてはどういう位置付けで実施するのか。
市街地整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・1期計画のその後の事業の成果を計る目的でフォローアップするので、2期計画とは切り離して計画を立てている。
伊藤(史)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・2期計画の事後評価を実施するときに、フォローアップは別枠で評価するということか。
市街地整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりです。
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・指標1の評価の仕方について、今回はこういう状況で低い値となったが、取組まれている事業一つ一つを見ると、必ずしも駅周辺の賑わいとは直結しないものも含まれていると思う。大宮区役所の新庁舎建設は駅周辺の賑わいに繋がるのか、また、駅周辺のネットワーク検討は、賑わいに貢献するものではない。やっている事業と評価が若干違う、ちぐはぐ感がある。さらにアンケートの最後のページのところに氷川参道の事業が入っている。評価者は氷川参道の進捗を見て評価しているが、今回の計画には入っていないのではないか。
市街地整備課	<ul style="list-style-type: none"> ・都市再生整備計画のなかでは、関連事業として氷川参道の事業が入っており、今回は国から補助をもらっている事業を中心に説明したが、計画のなかには位置付けがある。
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうだとすると益々残念な結果で、氷川参道は20年をかけて歩専化を図ってきた大事業である。評価の仕方が、これだけの事業をやっている

	<p>のに、駅周辺の賑わい一つで評価してしまうのは、事業に携わった方が一番残念な結果だったのではないか。正しく評価することの方法を考えてもらったほうがいい。</p>
市街地整備課 桑田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後事業を推進するうえでの参考とさせていただく。 ・久保田会長の意見に賛成で、フォローアップも含めて追加をできないかと思う。このように評価されるのはもったいないと思う。
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・関わっている人ほど痛切に感じるころなので、フォローアップの時にぜひそれを反映できようなフォローアップをしていただきたいと思いますと思う。 <p>(意見等以上)</p>
久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業について特段の意見がないということで審議結果とするがよいか。 <p>(意見なし)</p>
委員 久保田会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本件の審議は以上。

(2) その他（議事録の確認について）

	<p>今回の審議会の議事録は、久保田会長より指名した、伊藤（史）委員及び伊藤（匡）委員が事務局で作成する議事録を確認することで了承。</p>
--	--